
第2章 循環器病の特徴、岐阜県の概況

第1節 循環器病の特徴

循環器病²の特徴は、加齢とともに患者数が増加する傾向があることであり、悪性新生物(がん)と比べても循環器病の患者の年齢層は高くなっています。一方で、患者は乳幼児期から高齢期の幅広い年代に存在することから、ライフステージにあった対策を考えることが求められています。

循環器病は、不規則な生活習慣や肥満等の健康状態に端を発して発症し、高血圧症や糖尿病等の危険因子を基盤として、重症化・合併症の発症、生活機能の低下・要介護状態へと進行していきます。持続する高血圧症は動脈硬化症や各種臓器障害の強力な促進因子であるほか、急激な血圧上昇により重篤な緊急症等となる疾患です。

また、循環器病は、急激に発症し、数分から数時間の単位で生命に関わる重大な事態に陥り、突然死に至ることがあります。たとえ死に至らなくとも、特に脳卒中においては重度の後遺症を残すことも多くみられます。さらに、回復期及び慢性期には、急性期に生じた障害が後遺症として残る可能性があるとともに、症状の重篤化や急激な悪化が複数回生じる危険性を常に抱えているなど、再発や増悪を来しやすいといった特徴があります。脳血管疾患と心疾患の両方に罹患することもある等、発症から数十年間の経過の中で病状が多様に変化することも特徴の一つといえます。

循環器病は患者自身が気付かない間に進行することも多い疾患ですが、症状の進行がゆっくり進む場合などは、生活習慣の改善や適切な治療により予防・進行抑制が可能です。また、発症後早急に適切な治療が行われれば、後遺症を含めた予後が改善される可能性があります。

第2節 岐阜県の概況

1 人口

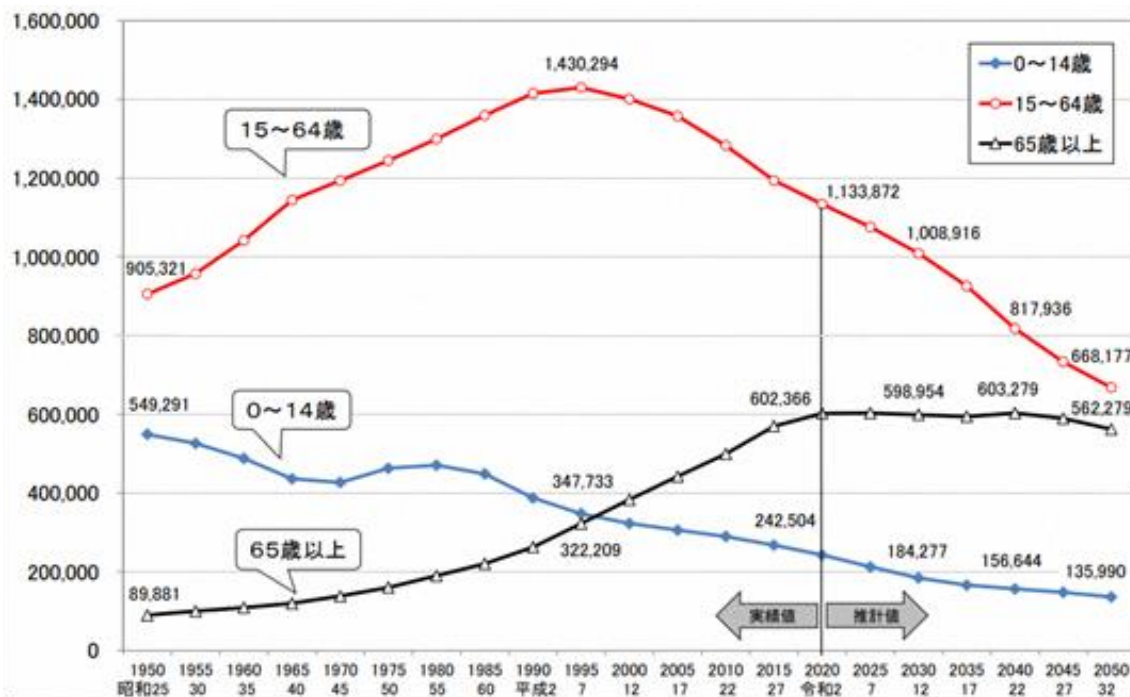
本県の人口は 2005 年頃から減少を続けており、2050 年には約 137 万人に減少することが予測されています。また、少子高齢化が進行しており、0～14 歳

² 循環器病:虚血性脳卒中(脳梗塞)、出血性脳卒中(脳内出血、くも膜下出血など)、一過性脳虚血発作、虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞など)、心不全、不整脈、弁膜症(大動脈弁狭窄症、僧帽弁逆流症など)、大動脈疾患(大動脈解離、大動脈瘤など)、末梢血管疾患、肺血栓塞栓症、肺高血圧症、心筋症、先天性心・脳血管疾患、遺伝性疾患、高血圧性疾患等多くの疾患が含まれます。

の子ども世代や15～64歳の現役世代が減少を続けているとともに、65歳以上の高齢者が増加を続けています。人口に占める割合をみると、0～14歳人口は12.3%（約7人に1人）、15～64歳人口は57.3%、65歳以上人口は30.4%（約3人に1人）となっています。

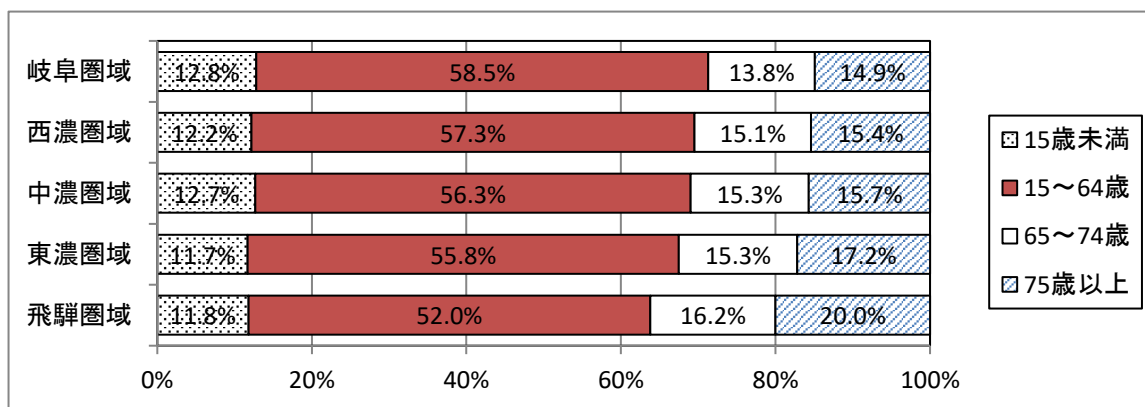
また、圏域別では、平成27年までに全ての圏域が減少に転じました。圏域別人口では、飛騨圏域の高齢化率が最も大きくなっています。

図2 年齢3区分別の人口の推移



出典：岐阜県政策研究会 人口動向研究部会（2022年3月）

図3 令和2年における圏域別の年齢区分割合

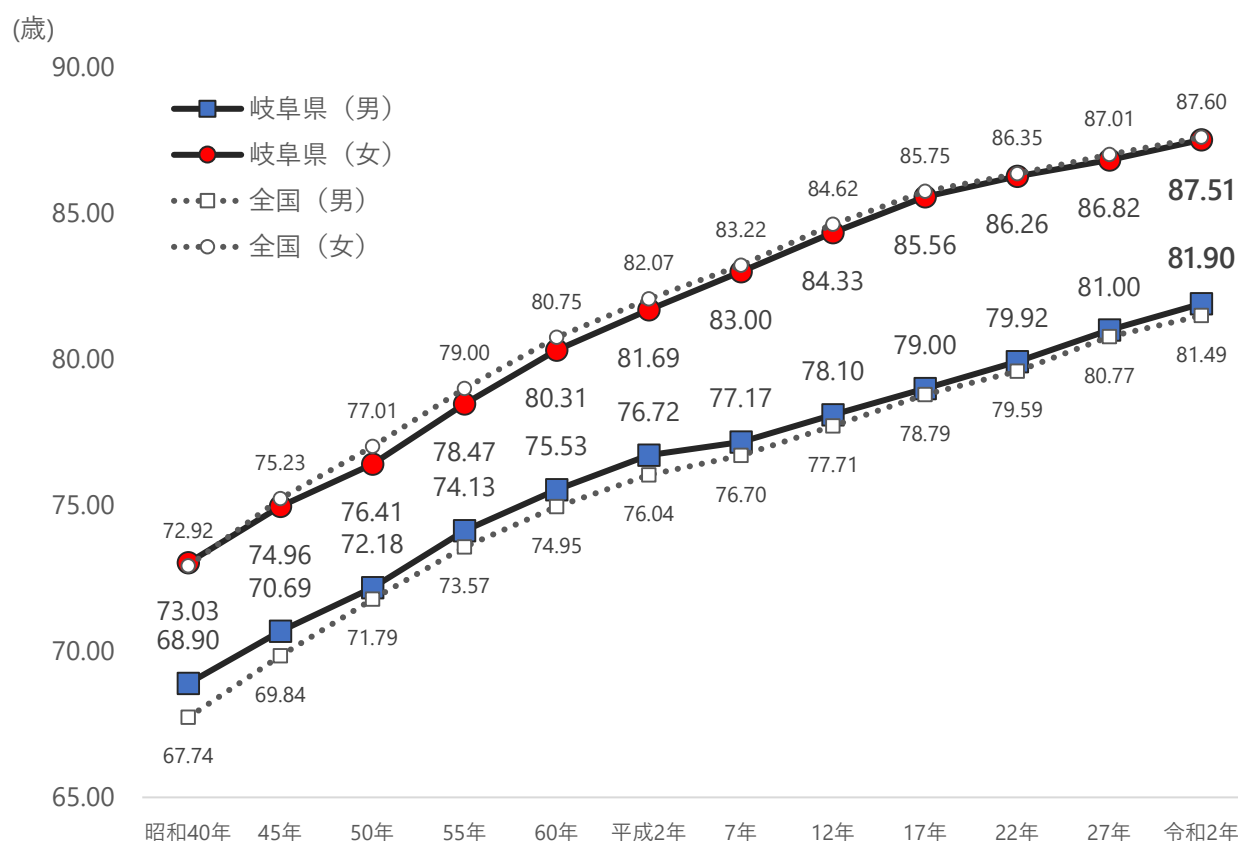


出典：国勢調査（総務省統計局）

2 平均寿命の推移

本県の平均寿命は男女とも年々延伸しています。男性は、全国平均より長く、全国の中でも上位です。一方、女性は、全国平均より短く、全国順位も低くなっています。

図 4 平均寿命の推移(岐阜県及び全国)



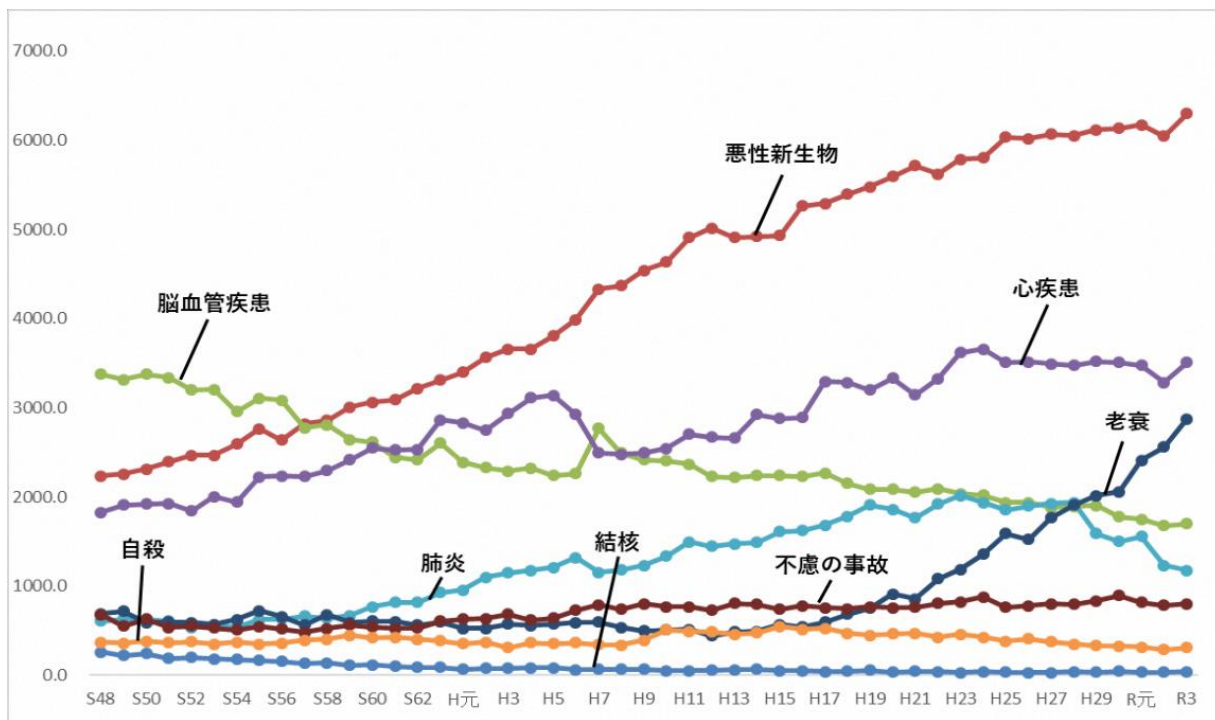
全国順位の推移	昭和40年	45年	50年	55年	60年	平成2年	7年	12年	17年	22年	27年	令和2年
岐阜県 男性	5位	5位	9位	9位	7位	3位	7位	9位	16位	11位	14位	11位
岐阜県 女性	20位	27位	40位	39位	39位	41位	37位	39位	35位	29位	34位	28位

出典：厚生労働省「都道府県別生命表」

3 死亡の状況

本県の主要死因別死亡数は、悪性新生物(26.1%)、心疾患(14.5%)、老衰(11.9%)、脳血管疾患(7.0%)となっており、心疾患と脳血管疾患を合わせた循環器疾患は、全体の21.6%を占めています(令和3年度)。

図 5 岐阜県主要死因別死亡数の推移

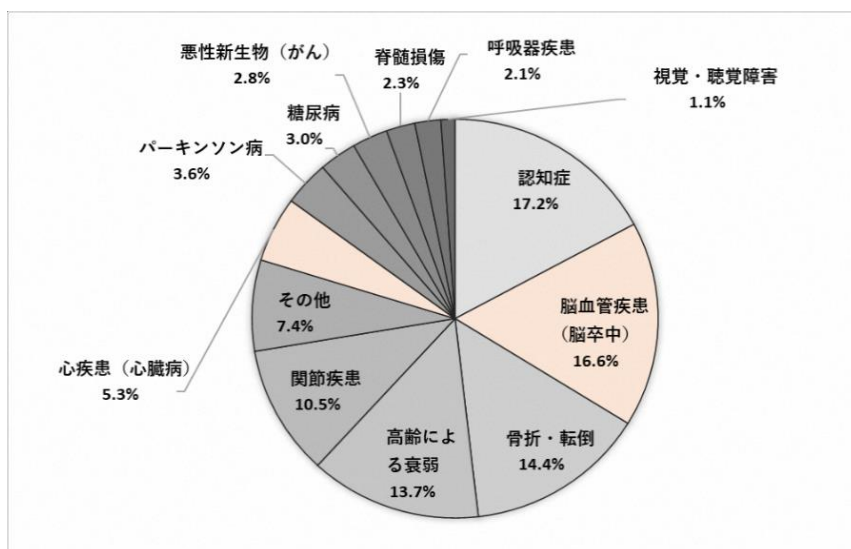


出典：岐阜県衛生年報

4 介護の状況

要支援・要介護認定者数は、平成12年4月の介護保険制度の施行以降、継続して増加しています。今後も要支援・要介護認定者数は増加を続け、令和17年度には13万人を超えると推計されています。介護が必要となった主な原因は、認知症が最も多く、次いで脳血管疾患となっています。

図 6 介護が必要となった主な原因(全国値)(令和2年度)

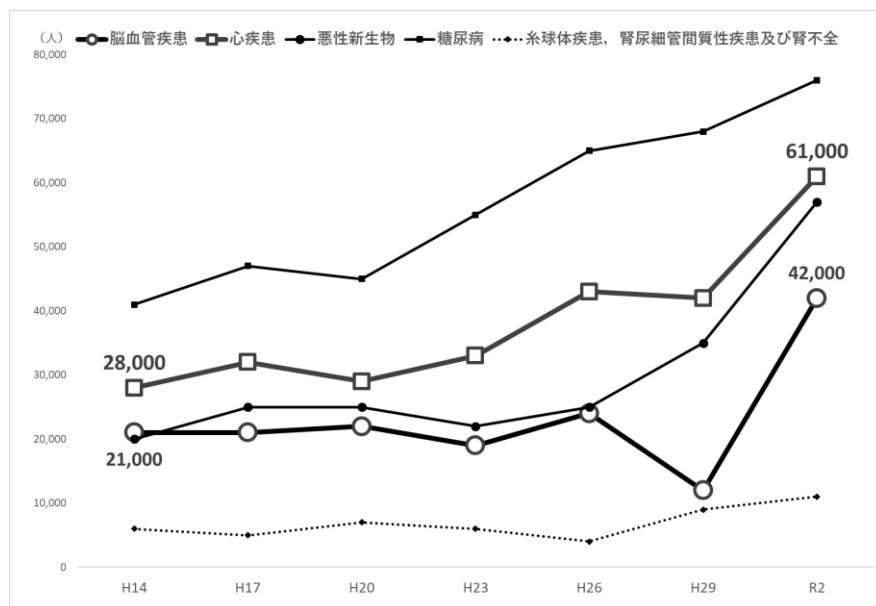


出典：厚生労働省「国民生活基礎調査」

5 医療の状況

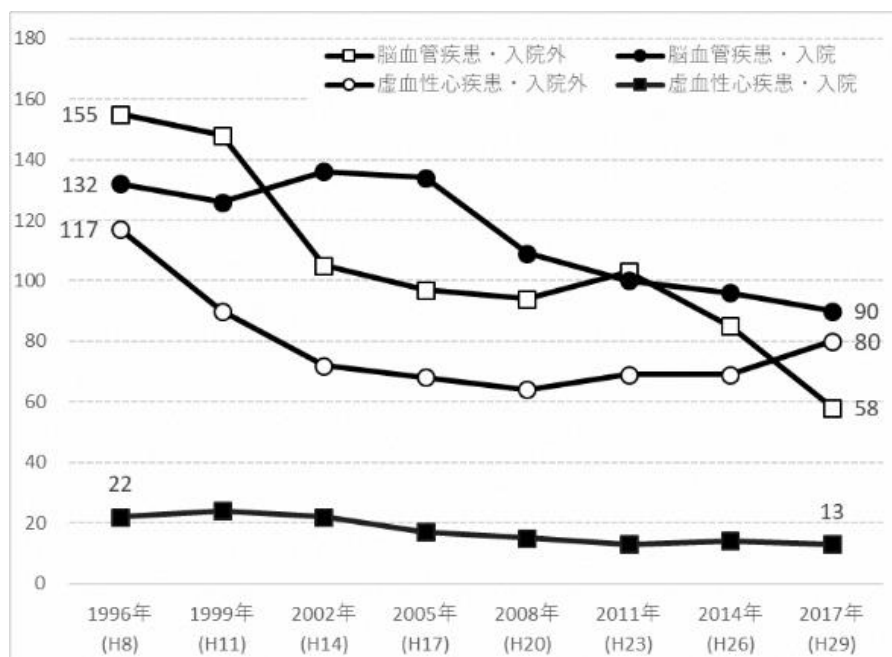
心疾患及び脳血管疾患の総患者数は、増加傾向にありましたが、2017年には減少に転じており、今後も減少傾向となるのか、動向を注視する必要があります。入院及び入院外受療率は、全体としては低下傾向にありますが、虚血性心疾患の入院外受療率は平成20年以降上昇に転じています。

図 7 の心疾患及び脳血管疾患総患者数の推移



出典：厚生労働省「患者調査」

図 8 受療率の推移



出典：厚生労働省「患者調査」